

ほっとニュース

発行：特定医療法人一成会 木村病院／企画広報室

一成会の新理念について

理事長 木村 厚

一成会は、1996年に理念を制定しました。そして、一成会の目指すものをはっきりさせ、職員全員でそれを確協力して、事業を進めてきました。



理念は、社会情勢や事業内容の変化に応じて見直しが必要です。一成会では、これまでも、折れ理念を見直し、部分的な訂正をしてきましたが、このたび、制定より7年をへて、新たな理念をしましたので、その背景やねらいなどをご説明致します。

この間、社会も、私たち医療・福祉業界の状況も、大きく変わってきています。一成会は、こうした状況の変化測し、かねてより、それに自主的・積極的に 対応するよう、取り組んできました。理念制定も、その取り組みのす。また、毎年の事業計画や業務改善活動などを通じて、一成会も着実にステップアップしていると考えているから、今回、理念もステップアップさせ、「患者さんの尊重」、「組織的・効率的な医療・福祉」の項目を増やし、次階を目指して行きたいと考えています。

旧基本理念(1996年制定)

- 地域のニーズに応えた医療をおこなう
- 親切で丁寧で正確な医療をおこなう
- 明るく働きがいのある職場を作る

⇒

新基本理念(2003年4月制定)

- 地域のニーズに応え、地域に選ばれる医療・福祉機関となる
- 患者さんを尊重し、説明と同意を重視する医療・福祉機関となる
- 親切で丁寧で安心できる医療・福祉機関となる
- 組織的で効率的な医療・福祉機関となる
- 明るく働きがいのある医療・福祉機関となる

○ 地域のニーズに応え、地域に選ばれる医療・福祉機関となる

医療・福祉業界が、厳しい競争と患者さん・利用者さんによる選別の時代に入っていることを踏まえて、今回、「地域のニーズに応える」だけでなく、「地域のニーズに応え、地域に選ばれる」と改めました。また、「地域一般病棟」を念頭に、従来通り、予防医療から、急性期医療、慢性期医療、在宅医療まで、「患者さんにとって切れ目のない医療・福祉」を目指します。今後、地域において、「病病連携」、「病診連携」など、他の医療機関と



協力し合って医療・福祉に当たることがさらに増えて行くことから、「医療機関相互の診療情報提供の充実」を図りたいと考えています。



○ 患者さんを尊重し、説明と同意を重視する医療・福祉機関となる

従来、私たちの仕事は、どうしても、医療・福祉のサービスを、「医療従事者側が患者さんに一方的に与える」という形でしたが、それを変えて行く必要があります。つまり、「医療従事者本位」ではなく、「患者さん本位」の医療・福祉が求められるようになってきています。これは、私たちにとって大きな「発想の転換」であり、「難しい挑戦」であると言えます。

具体的には、医療の内容・方法を定めるに当たって、私たち医療従事者側が、患者さんやご家族の意思を尊重することが大切です。そのためには、患者さん・ご家族に、私たちが、わかりやすく説明し、納得の上で同意を頂くようにしなければなりません。病状や診療方針など、診療情報は、基本的に、患者さんに開示される



必要があります。きちんと説明できるためには、医療が事実に基づくものであり、カルテその他の記述が正確になされていなければならないのは、当然のことです。そうして、患者さんと私たちが医療情報を共有した上で、相互の信頼に基づき、医療・福祉に取り組んでいきます。

一方、私たちは、患者さんの病状、病歴や、ご家族に関することなど、個人情報を知らせて頂きますが、これは医療・福祉の目的のために、患者さんの大切なものを、私たちが一時的にお預かりしているのです。ですから、慎重に注意深くあつかう必要がありますし、業務上知りえた個人情報が第三者にもれると、患者さんの信頼を大きく損なうことになるので、厳しく阻止しなければなりません。

○ 親切で丁寧で安心できる医療・福祉機関となる

従来の「親切で丁寧で正確な」を「親切で丁寧で安心できる」と改めました。医療事故が、大きな社会問題となり、「安心できる医療・福祉」ということが、強く求められるようになってきているからです。生命や健康の危機にさらされている患者さんが「安心できる」ために、私たちが何をすべきか、よく考え、行動に結びつけて行きたいと思います。

「親切で丁寧で安心できる」の根本は、私たちが、医療・福祉というサービスを提供し、患者さんから報酬を頂いているということから始まります。つまり、「患者さんはお客さまである」ということが、基本です。

○ 組織的で効率的な医療・福祉機関となる

医療費の増大は、国家財政を圧迫しており、質が高く、かつ効率的な医療・福祉が求められています。効率を追求するためには、組織的に仕事を進めることが不可欠です。

従来、個人プレーの色彩が強い、医療・福祉の世界ですが、チームプレーに力を入れ、私たちの目指すチーム医療を作って行きます。基本は、各人が、組織の中で求められている役割を自覚し、きちんと果たす、という



ことです。そして、みんなで協力して業務改善などの課題に取り組み、問題を解決して行きたいと思いを ます。

○ 明るく働きがいのある医療・福祉機関となる

「明るく働きがいのある」は、そのまま、残しました。病気の患者さんやご家族に接するために、まず、私たち自身が元気でなければなりません。また、一成会 が、医療法人として、厳しい時代を生き抜いて行くために、職員一人一人にとって、「明るく働きがいのある」職場でなければなりません。そのためには、職員 一人一人の努力も大切ですが、何より、理事会が、そういう場を作るために先頭に立って努力しなければならないと思います。理事会は、「職員の努力と成果を 公正に評価する」と同時に、職員の先頭に立って、「夢と希望を実現するよう努力」して行きたいと考えます。

新しい理念は、木村病院、訪問看護ステーションみどり、訪問看護ステーションわかば、訪問看護ステーションみずき、ヘルパーステーションみどり内に掲示し てあります。私どもは、「地域のニーズに応える医療・福祉機関」として、「地域に選ばれる医療・福祉機関」を目指し、さらに一層努力して行く所存ですの で、地域の皆様のご理解とご指導ご鞭撻を、よろしくお願い申し上げます。